

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 6月 1日(日)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会2日目	Mコート	第4試合 14:45~													
<チームA> 八王子 東京 1位		100 { <table border="0"> <tr><td>29</td><td>1Q</td><td>30</td></tr> <tr><td>25</td><td>2Q</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>3Q</td><td>19</td></tr> <tr><td>30</td><td>4Q</td><td>26</td></tr> </table> } 90	29	1Q	30	25	2Q	15	16	3Q	19	30	4Q	26	<チームB> 県立取手松陽 茨城 1位		
29	1Q	30															
25	2Q	15															
16	3Q	19															
30	4Q	26															

【Aブロック】

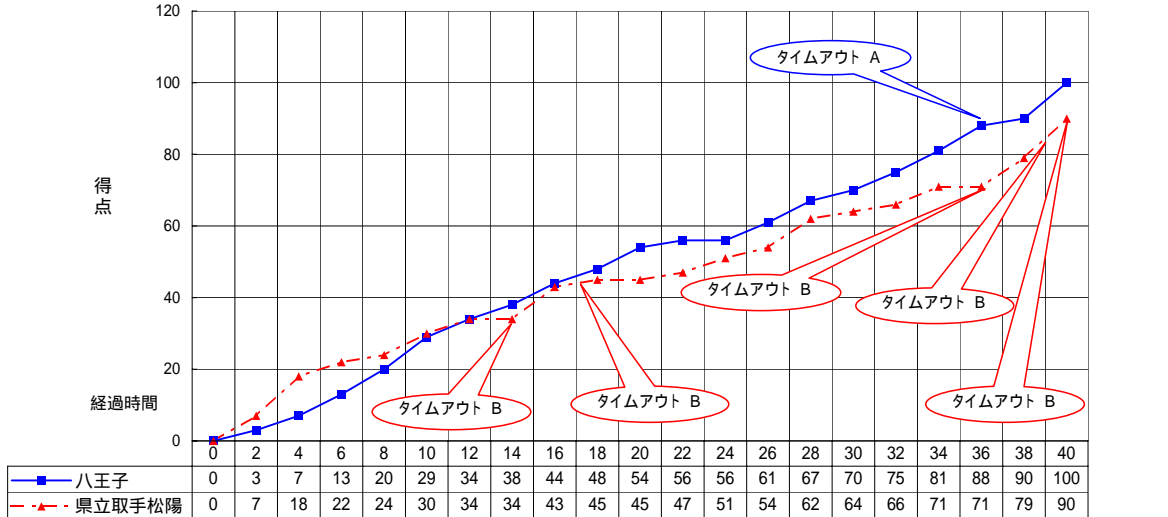
主審：清水 幹治(神奈川) 副審：小沢 勤(山梨)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	板垣 祐輔	9	3			
	5	小宮山 怜宇	6	1	1	1	
	6	千葉 俊一					
	7	エルバシ・ゴールギ・ワドゥ	33		12	9	1
	8	中島 一海	13	1	5		1
	9	橋本 貴智	27	7	3		1
	10	岡部 奨	10		5		3
	11	佐藤 弘樹					
	12	本多 祐二					
	13	東城 皓太					
	14	檜原 慈温					
	15	岩崎 大樹	2		1		
	16	五百部 浩志					
	17	高橋 賢					
	18	根岸 敬之					
コーチ		石川 淳一					
合計			100	12	27	10	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	飛田 浩明	43	9	8		3
	5	来栖 翔太	13	3	2		4
	6	松岡 一成	10		4	2	4
	7	牧山 康太	18	4	3		
	8	畑 昂志	2			2	
	9	馬場 慶司	2		1		1
	10	斉藤 竜之介					
	11	斉藤 弘樹					
	12	小川 俊樹					1
	13	小島 慎太郎					
	14	串田 巨至	2		1		
	15	豊田 稔朗					
	16	青野 友彦					
	17	土方 正憲					
	18	斉藤 大樹					
コーチ		佐藤 豊文					
合計			90	16	19	4	

:スターター / :出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評

記入者：長谷川 智子

準決勝、危なげなく勝ちあがってきた八王子と、延長戦にまでもつれこみ激闘を制した取手松陽の決勝戦は、第4pまで勝負がわからない展開になった。お互い様子見のスロースタートでゲームが始まる。

第1P、八王子1-2-2、1-3-1ゾーンや、ワドゥを中央に残しローテーションディフェンスなどを組むも、松陽 飛田の3p、ドライブインが連続して決まる。松陽は3-2ゾーンで八王子 ワドゥに対しすばやくWチームを仕掛け、ウィークサイドへのスキップパスをさせるも、八王子 橋本が連続3pを決め、松陽1点リードで第1P終了。

第2P、八王子のスティールが成功し逆転に成功、続けてディフェンスリバウンドからの攻めも決まり、開始4分、松陽タイムアウト。タイムアウト直後、八王子 橋本が連続3pを決めると松陽2回目のタイムアウトを請求。残り1分34秒、ワドゥのアリウープダンクが決まり会場がどよめくも、松陽は、松岡がゴール下でシュートファウルを誘う。しかしフリースローをはずしたその隙に、八王子が連続得点をあげ、54-45八王子リードで前半終了。

第3P、局面を打開したい松陽は、Wチームでワドゥに対し3秒オーバータイムを連発させる。その間、飛田、牧山が確実に加点し、4点差までおいあげ、ディフェンスをがんばるも松陽 来栖 松岡が4つめのファウルになり苦しい状況で第3P終了。

第4P、松陽、粘りのディフェンスをみせしのくも、八王子 板垣 橋本が3pを決め徐々に点差が広がる。ベンチスタートだった 来栖 松岡を戻すも、疲れが見えはじめた松陽の足が止まり、最大17点差リードされたところで、残り4分松陽タイムアウト。2-2-1のプレスをかけ、最後まであきらめない松陽だが、シンプルに得点を重ねた八王子が、100-90で優勝した。

2日間でハードゲームを4試合戦ってきた両チームに、会場からは惜しみない拍手がおくられた。